

第2回 多摩市自治推進委員会 要点記録

- 1 日時：平成28年12月2日（金）午後6時30分から午後8時30分
- 2 場所：多摩市役所本庁舎3階 特別会議室
- 3 出席委員：和田委員長、西川副委員長、島野委員、高澤委員、小城委員、富田委員
- 4 欠席委員：なし
- 5 議事：今後の取り組みについて

1 開会

委員長

第2回自治推進委員会を開催する。

第1回の会議要点記録については、各委員にメールで確認依頼を行ったが、修正等の意見がなかった。本日確定し、公式ホームページ等で公開する。

（全員了承）

2 報告

委員長

本日の配布資料について、事務局より説明をお願いしたい。

資料1～3に基づき、事務局から内容について説明を行った。

委員

資料1の公聴会・市民説明会の資料について、参加者数は延べ人数とのことだが、P2では参加者数が1人の説明会があるが、1人でも説明会を開催するのか。

事務局

一人でも参加者がいれば、説明会は開催する。

委員

資料を見ると、同じような内容の説明会が複数回開催されているものが見受けられるが、2回目は参加者が減少し、1人となっているものがある。

企画政策部長

国や都の制度等により、例えば、計画原案の段階で説明会を開催した後、計画決定段階で、もう一度説明会を開催しなくてはいけない等のルールが定められているものがある。計画原案から、さほど変更なく決定となった場合、参加者は少なくなると思われる。

委員

広報広聴課の「市長対話」は、テーマが似ているものが複数記載されているが、同じ内容で複数回行ったのか。また、参加者は同じか。

事務局

市長が、市内の企業や大学等に出向き対話会を行ったので、テーマが同じであるが、参加者は異なっている。

企画政策部長

今年は、対話会のやり方を変えて、無作為抽出で市民に呼びかけを行った。

委員

子育てや高齢に関するテーマの説明会は、参加者の年代が想像できるが、公共施設に関するものはどのくらいの年代の参加者が多いのか。

事務局

年代の集計はないが、60歳代から70歳代の方が多いという印象である。

副委員長

今後のテーマ設定や議論にも関わってくると思うが、パブリックコメントやアンケート等の参加を増やしたい場合、今後はインターネットの活用も考えられる。また、集計の際には、どれだけの市民を対象にしたのかなど、母数等の詳細がわかるとよい。そうすれば、仕組みの改善につながれると思う。

委員

新聞やテレビ等の調査だと対象者もしっかり決まっており、母数も明確にされて

いるが、延べ人数のみの記載では回収率がわからない。

副委員長 例えば、制度自体の説明会と制度を設計する際の実験会とでは、同じ説明会でも趣旨が違ふ。この点を踏まえて今後議論する必要がある。

委員長 議論はテーマ設定の時に改めて行いたい。事務局より、配布資料の説明の続きをお願いしたい。

資料4及び参考資料1、2に基づき、事務局から内容について説明を行った。

市内のNPO団体や任意で活動している団体で、市が把握しているものについてわかるとよい。また、市の内部マニュアル「市民参画の手引」きについては、庁内で研修があるのか。

事務局 NPO団体や、任意で活動している団体については、地域デビュー手引書という団体を紹介した冊子等があるので次回示したい。

「市民参画の手引」の研修については、新入職員に対しては、毎年行っている。「市民参画の手引」は、庁内向けホームページにて公開しているが、浸透していない部分があるため、今後は管理職・係長職向けにも研修を行っていきたいと考えている。また、先ほどのアンケートの回収率について、児童青少年課が行った「多摩市インターネットの利用に関するアンケート」の集計がある。小中学生については、学校の授業で行ったため、回収率は92.5%、保護者については、青少年問題協議会を通して行い67.6%であった。

3 議事

委員長 では、本日の議事に入りたい。今後、自治推進委員会でどのようなテーマを中心に議論するかを話し合いたい。今期は、市長からの諮問がないとのことで、前回の会議で皆さんから頂いた意見と、事務局からの説明をもとに自由に意見交換していきたい。

副委員長 第三期自治推進委員会では、コミュニティについて議論されたようだが、コミュニティセンターの現状や課題についてはどのようなものがあったのか。

市民参画では、高齢者の就労状況の変化等が起こっていると思うが、現在のような課題があったのか。また、委員会から提案のあった「コミュニティ会議」等はどのようなになったのか。

委員長 これまでの自治推進委員会が提言した内容が、市としてどのように取り扱われたのだろうか。その後のフォローというか、行政はどのような行動を起こしているのだろうか。

事務局 第三期自治推進委員会において、コミュニティ自治の推進に向けた検討が行われた。コミュニティ組織には、社会福祉協議会のほか、青少年問題協議会や自治会がある。当時から、どのコミュニティ組織でも継承者の減少や存在自体の認識不足などがあげられている。また、「コミュニティ会議」については、第三期自治推進委員会と時期を同じくして就任した現市長の公約として掲げた「地域委員会」の設置の構想があったが、まずは、市民に本市のことをよく知っていただくための講座を数年前より実施している。

委員長 今期の委員会のテーマについても、いままでの自治推進委員会の提案をつなげて広げるのか、新しい提案をするのか、いろいろと考え方があると思うがどうか。

企画政策部長 これまで、自治推進委員会からは、いろいろな提案をいただいている。しかし、現在は、コミュニティを維持すること自体が難しくなっていており、住民自治自体が曲がり角にきていると感じている。その中で、市民自治を進めるためには、今後どうしたらよいかを検討していただきたいと思っている。

委員 現状では、参加している世代が決まっているように感じる。自分の意見を出していない市民から、どのように意見を出してもらうのが重要で、まず、きっかけづくりが必要である。例えば、新しい世代を取り込まないと変わらない。その世代をどう取り込むか。そうすると「たまおが行く」も活かされてくるのではないか。

委員長 新しい世代とは、どのような世代が考えられるか。

委員 例えば、65歳以下の市民である。特に子育て世代。子育て世代としても、まちのイメージが悪くなるよりは良いほうがいいと思う。例えば、多摩市にゆかりのあるハローキティやスタジオジブリなどと連携した取り組みができるとよい。ワークショップやボランティア活動にキャラクターが来られるかわからないが、キャラクターの印象もよくなると思うし、イベントや活動も盛り上がるのではないか。

委員 私たちの任期は2年で、会議は全15回と限られている。その中で、提案を作っただけで終わりではなくて、継承できるような提案にしたいと思う。第六期の委員会のみで終わるのか、次につながるのかで変わってくる。せっかくなので今後継承できるようなものにしたい。

委員 確かに、子育て世代から動いていただければいいのかもしれないが、現在、市内には、60歳代の世代が多くいると思う。その世代の人たちに何か行動していただいたらいいのではないかと思う。例えば、高齢者の人たちが、多摩のあちこちでイベントをやっていたら面白い。高齢者がまず行動して、次に、若い世代につなげていけばいいのではないか。また、パブリックコメント等でコメント数が“0”件の案件があるが、市民意見を聞いたということは、市として何らかの意見がほしかったはずであるのに、“0”という結果の後はどうなったのだろうか。提案した部署自体が、何がほしいのかわかってないのではないか。

委員 私は、60歳代の人たちはすごく活動している印象がある。ただ、その活動があまり知られていない気がする。発信する力があまりないから知られておらず、パイプ役がいらないから参加者が少なかったりする場合もある。そこをつなげる必要があるのではないか。

委員 女性同士は、結構つながりが多いと思う。ただ、どうしても男性から子育て世代のお母さんにはつながりがなく弱い。また、各団地それぞれで良い事業を行っているが、団地内で終わってしまっていると感じる。運営者側のメンバー構成や課題と、参加者サイドでの課題とは異なる視点が必要なので分けて考える必要があるのではないだろうか。グループとしては、子育て母親グループ、そして定年を迎えた時間のある世代。また、コミュニティセンター等でいろいろな活動をしているようだが、中身がいまひとつわからない。もっと活性化して、コミュニティセンターが実施している活動を横に広げる必要がある。さらに、参加対象を明確にする必要もあ

る。子どもの祭りから受験、結婚、子育てと段階ごとにテーマ設定をする。運営は時間のある定年を迎えた世代にお願いできたらいいと思う。

委員

青少年問題協議会は全国にある。PTA活動を終了した人たちが参加したりしている。イベント等では、毎年、各団体から数人動員されている。運営内容は同じであり参加者が違うだけだが、運営のコーディネートが必要である。それがないと動員が義務になり、意欲低下につながる。最初に立ち上げた人、作った人は大変だけどやりがいも持ちやすい。しかし、それを継続しなければいけない人は、前例通りにやるしかない場合も多く、負担感が高くなる。

コミュニティは、なぜ活性化していかないのか。行政向けだけでなく、市民自身がリニューアルまたは新しい取り組みを作っていける仕組みづくりが必要であると思う。

委員

本市の永住率はどれくらいか。長く住まない人は、あまり周りに関わりたくないから関心が少ないのではないか。

事務局

第36回多摩市政世論調査報告書によると、多摩に移住してどれくらいかという問いに対し、3年以下が6.4%、5年以下が3.3%、10年以下が10.1%、15年以下が7.1%、20年以下が10.8%、20年以上が60.5%である。

委員

多摩で生まれ育ち、一度を離れるが、結婚して子どもが生まれて、また多摩に戻ってくる人たちを多く知っている。諏訪では団地が建て替えられて、その傾向がさらに強くあると思う。

委員長

20年以上も住んでいるというのは、すごいことだと思うが、ある程度、転入転出があったほうが、地域が活性化する場合もあると思う。長く定住している方が多い地域の事業などでは、新しく転入してきた若い人は運営に参加しにくい場合もある。

副委員長

仲間ができるといいのだと思う。若い人も入れて仲間になれる環境作りがあるといい。

委員

新しく転入してきた人は、すでにあるグループには入りにくいと思う。

事務局

先ほど報告した世論調査で、これからも多摩市に住み続けたいかという問いに対しては、ずっと住み続けたいが43.9%、当分は住み続けたいが38.5%と住み続けたいと答えたのが82.4%であった。

委員

子どものつながりがあると、自然とママ友達はできるように感じる。子どもがいなくてもコミュニティを作ることができる環境の仕組みづくりが必要である。

委員長

おもしろい仕組みがあると、若い人でも参加すると思う。

副委員長

若い人たちも、お客として参加することは多い。ただ、運営側となると少なくなってしまう。

委員

グリーンボランティア森木会では、興味を持って教室に参加し、仲間ができる。それからボランティアに入会する。団体の代表が高齢者であることが多く、若い人の入会を歓迎し、かわいがってくれる。参加者が増え、仲間ができるという流れができていくように感じる。入会のきっかけは、木の実に興味を持ったなど、単純だったりするので、どんなことでも「きっかけや興味」が大切であり、このような「きっかけ」の仕組みづくりができるとよい。

委員長 イベントやお祭りなど、広い市民参加が話題になっているが、行政への市民参加についてはどうか。

委員 ボランティアは、まちづくりの一部であり、つながりはあると思う。最初は木の実に興味を持った人が、次は川に興味を持つかもしれない。このように広がりがあるとよい。

委員 市のアンケート等もどのように告知していくかが重要である。紙媒体では費用も掛かるので Facebook や twitter、Line など、SNS を活用し呼びかけたらよいと思う。SNS の活用を広げていくことで、参加者が増えるのではないだろうか。

また、多摩市で紙飛行機大会など全ジェネレーションが参加できるイベントがあると盛り上がるのではないか。「伝える・つながる」を機能させることもできる。

さらに、投稿広場などをインターネット上で開設するなどして、助けが必要な時に、地域で助け合いができるようにするのもいいと思う。

委員 市の説明会が、その場、その場で終わってしまっているように感じる。本来は将来に向かって続けるべきものもあるのではないだろうか。1年に1度は、ある世代を対象とし、テーマ絞った説明会イベント等を実施したら面白いと思う。

委員長 各委員の意見を伺っていると、本委員会では、「気づき」と「きっかけ」というテーマで議論してもよいのではないかと思う。また、今後の議論の参考とするため、市内で活動するNPO団体や任意団体の資料を事務局に用意してほしい。

事務局 「地域デビュー手引書 市民活動紹介編」があるので、次回までに用意する。

副委員長 今後の検討内容にもよるが、現在のコミュニティセンターの運営はどのようなになっているのだろうか。

委員長 現在は、指定管理者制度により運営されていることが多く、建物の管理だけを行い、地域の現状や課題などを把握していない指定管理者も全国では多いようだ。

副委員長 地域にコミュニティワーカーがいると違ってくるのかもしれない。以前は、保護者たちのつながりが強く、そのつながりの上に保育園等のサービスがあったが、今はサービスありきで、保護者のつながりが薄い。例えば、保育士がコミュニティワーカーの役割をにない、意識して地域づくりをしていかないと、次につながっていかないと思う。

委員長 今後、現代にあった仕組みを考えてみたい。

本日の意見交換はここまでとする。次回にテーマ設定ができるとよい。

4 その他

事務局 第4回の会議日程については、現在、調整中のため決まり次第お知らせする。次回、第3回委員会の開催については、平成29年1月23日（月）、当初予定の開始時間を早め午後6時開始とする。場所については決定次第お知らせする。

委員長 本日の自治推進委員会はこれで終了とする。

5 閉会